

東京都写真美術館

年報 2018-19

Annual Report:

Tokyo Photographic Art Museum 2018-19

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

東京都写真美術館年報 2018 - 19

Annual Report: Tokyo Photographic Art Museum 2018 - 19

東京都写真美術館では、平成30年度のコセプトとして「たのしむ、まなぶ美術館」を掲げ、展覧会ほかギャラリートーク、シンポジウムなどの内容等の充実と、SNSの活用や館内外でのイベント開催など、多角的なアプローチで広報を展開することにより写真美術館の魅力を高める取組を行った結果、37万人を超える多くのお客様にご来館いただきました。

展覧会事業では、世界でも有数の3万5千点(2019年3月末時点)にのぼる写真・映像コレクションを活用したシリーズ展、日本未公開の初期写真を多数紹介した企画展など、関係団体や企業、出品作家の協力のもと、20展覧会を開催しました。また、作品に親しみ美術館を身近に感じていただけるよう、出品作家や当館学芸員によるギャラリートーク、講演会のほか、図書館司書による関係資料紹介などを積極的に進めました。

2月には、11回目を迎えた「恵比寿映像祭」を開催しました。今回は、「トランスポジション 変わる術」を総合テーマとして、26の国と地域より67組の作家及びゲストが出品・参加し、写真美術館全館と恵比寿ガーデンプレイスや日仏会館などの近隣施設において、映像作品の展示、上映、ライブ・イベント、シンポジウムなど多彩なプログラムを実施しました。

写真美術館の基盤をなす作品収集においては、東京都をはじめ当館の支援会員である企業、団体、作家の皆様からのご支援により、厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品675点を、新たなコレクションとして加えることができました。

教育普及の分野では、当館ボランティアのご協力のもと、展覧会の対話型鑑賞と暗室を利用した制作とを組み合わせたスクールプログラムや、子供から大人、初心者から上級者までを対象とした当館ならではのワークショップを開催し、写真や映像を通じて豊かな学びの場を提供してまいりました。

また、人材育成にも力を入れており、4名のインターンを受け入れました。

地域活動においては、渋谷、恵比寿、原宿周辺の文化施設が集う「あ・ら・かるちやー文化施設運営協議会」の活動により、同地域の文化施設の魅力向上に寄与してまいりました。

今後とも、東京都写真美術館は、わが国初の写真・映像の総合専門美術館として、内外の優れた魅力ある作品による展覧会の開催を軸に、写真・映像文化の振興・発展に努めてまいります。

本書が、皆様にとって当館を知るための参考になれば幸いです。

平成30年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館の事業内容	6
東京都写真美術館の戦略的運営	7
展覧会事業	14
教育普及事業	27
作品資料収集／作品収集実績	37
平成30年度新収蔵作品の紹介	40
調査研究・普及活動（個人）	45
広報事業	49
保存科学研究室	54
図書室	56
文化施設連携事業	58
ホール上映（実験劇場）	60
支援会員	68
ミュージアム・ショップ／カフェ	72
数字で見る東京都写真美術館	73
美術館条例	78
施行規則	81
開館の経緯／組織図	83
フロアマップ／施設面積	84
建物概要／設備概要	85
利用案内	86

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像文化全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

1. 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
2. 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
3. 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
4. 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
5. 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
6. ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
7. 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館*」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として映像展をはじめ各種展覧会を開催しています。

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約3万5千点（平成31年3月現在）の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展・映像展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会や、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、鑑賞ワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ギャラリートーク、博物館実習生、インターンの受け入れ、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）を行う。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料に関する情報の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画の上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開する。

東京都写真美術館では、平成18年3月2日、館のミッションを次のように策定しました。

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長 福原 義春[※]

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

〈過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館〉

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子供や若者達に積極的に文化発信を行います。

〈質の高い写真・映像文化と出会う美術館〉

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

〈写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館〉

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

〈写真・映像文化の拠点として貢献する美術館〉

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

〈開かれた美術館〉

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

[※]第4代館長、名誉館長

「東京都写真美術館は、 写真・映像分野の世界のトップ美術館を 目指します」

写真・映像を通して、世界と行き交う、世代が行き交う、互いの違いを受け入れあう、そんな未来型美術館を目指します。

1 世界有数の写真・映像コレクションの構築と、 世界への発信

○国際ネットワークの構築

世界の関係機関との信頼関係を築き、ネットワークを強化し、国際シンポジウムの開催、海外への企画展・収蔵展の巡回、共同企画、ワークショップ等の開催を促し、世界に向けて日本の写真・映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。

○画像WEB公開など情報システムの充実

写真美術館の所蔵作品の画像WEB公開等の取組を強化し、都民をはじめ世界中の人々に広く発信する。

○情報発信力の強化

ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、海外メディア・ネットワークを広げ、美術館における複数言語対応など、国際化広報スキームを構築し、国際発信力を高める。多彩な手段による新たな発想の広報活動を展開し、アウトリーチを高めていく。

2 写真・映像の可能性に挑戦する新進作家の支援

- 日本の次世代を代表する旬の作家の個展や新進作家展の開催
様々な価値観や世代が交流するきっかけとするため、一過性ではなく、持続可能な文化的事業として位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。また、作家が展覧会を契機に世界進出できるようなシステムの構築を目指す。

3 来館者につねに感動を与える美術館

○話題の国際展の開催

現在最も世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、国際都市東京をアピールし、優れた写真・映像の鑑賞機会を提供する。

○実験劇場の刷新

写真・映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨きさらなる魅力を高める。

4 来館者の立場に立った開かれた美術館

○文化施設連携事業・地域連携の強化「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」

魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、地域社会に活力を与えると共に地域の新たな原動力となるグループの創造を促す。

○スクールプログラム等の学校との連携、ボランティアとの協働、あらゆる人が享受できる多彩なワークショップ

次世代を担う児童・生徒の可能性を引き出すと共に、子供から上級者まで様々なニーズを充たす、より魅力的なプログラムを人々に提供する。

○支援会員制度の強化

企業・団体との協力をより強化する。

5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、 領域横断的なフェスティバルの実施

○「恵比寿映像祭」のヴァージョン・アップ

国際フェスティバル「恵比寿映像祭」の国際発信力に磨きをかける。

国内外の先端的なアーティストを招集すると共に、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げ、展示、上映、ライブ・イベント、講演、トーク・セッションなどを複合的に実施する。

映像分野における創造活動の活性化を図り、優れた映像表現を、過去から現在、未来へと継承し、異なるジャンルの対話を促す場とする。

6 未来に向けた文化の継承

- 適切な作品収集、管理、保存による貴重な作品の次世代への継承
計画的な収集、保存科学の研究に基づいた最適な作品管理によって、都民の貴重な財産である作品・資料を、次世代に継承する。

○外部収蔵庫・施設の確保・運営

作品の大型化・デジタル化により、全作品の美術館内収蔵が困難であることから、外部施設を確保し、貴重な作品を次世代に継承する。

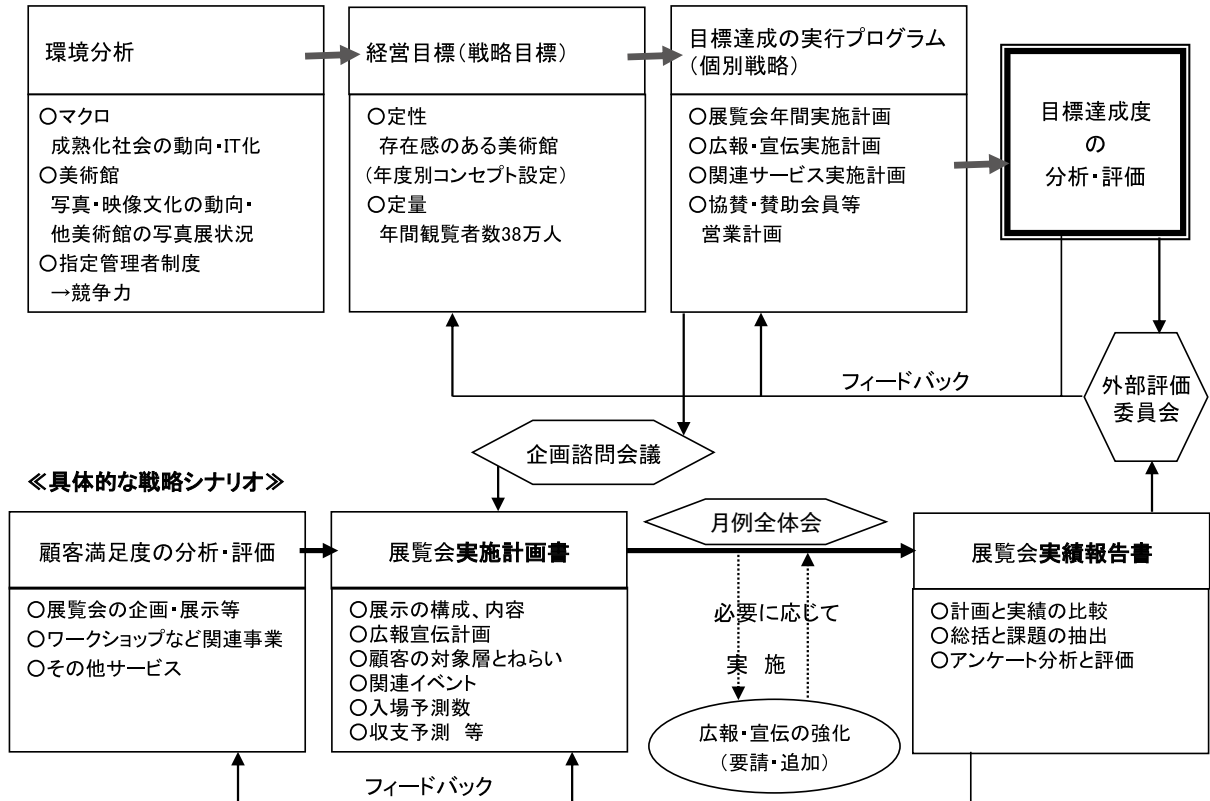
○ここに来れば世界中の写真集が見られる、世界一の図書室

写真・映像の専門図書室として、写真・映像に関するすべての資料が揃う、一般の人から専門家までが満足するワン・アンド・オンリーの図書室を目指す。

制定年月日：平成27年3月2日

東京都写真美術館における戦略的な運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



《経営目標の設定》

定性目標 「存在感のある」美術館運営

とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

年度別コンセプト

平成13年度 「静かな賑わい」
 平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」
 平成15年度 「感動を与える」
 平成16年度 「明るく迎える美術館」
 平成17年度 「信頼される美術館」
 平成18年度 「判りやすく説明する美術館」
 平成19年度 「対話する美術館」
 平成20年度 「顔が見える美術館」
 平成21年度 「交流を広げ、つながりを強める美術館」
 平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ！」

平成23年度 「広報マインドと実践」
 平成24年度 「発信、写美から世界へ」
 平成25年度 「楽しみ方いろいろ美術館」
 平成26年度 「未来を創造する美術館づくり」
 平成27年度 「『写真美術館らしさ』とは何か？」
 平成28年度 「恵比寿の顔となる美術館」
 平成29年度 「また来たくなる美術館」

平成30年度 「たのしむ、まなぶ美術館」

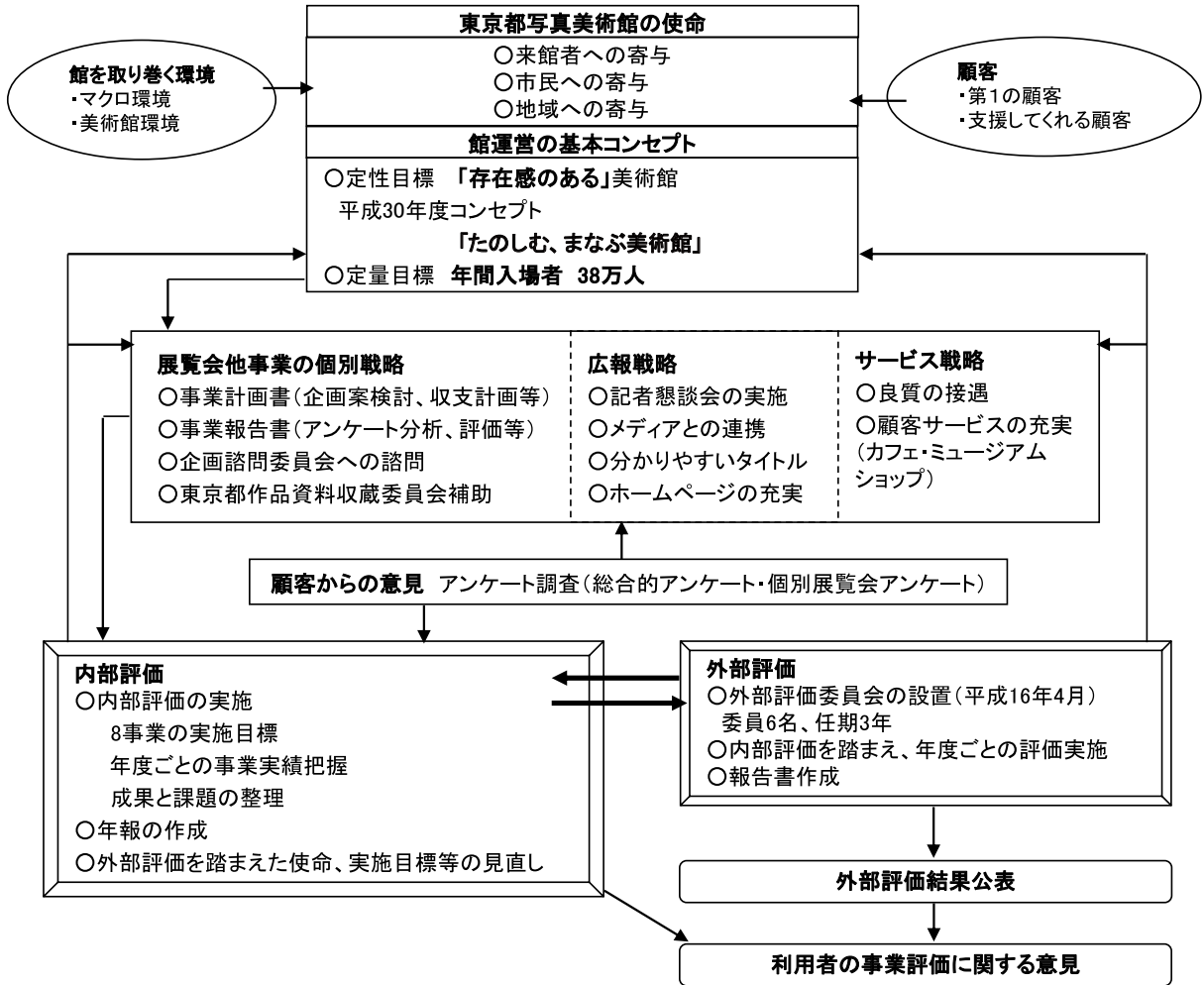
定量目標 年間入館者 38万人超

平成13年度	227,183人 (前年度比 1.04倍)	平成23年度	429,657人 (前年度比 1.01倍)
平成14年度	364,307人 (" 1.6倍)	平成24年度	407,382人 (" 0.95倍)
平成15年度	413,289人 (" 1.1倍)	平成25年度	404,256人 (" 0.99倍)
平成16年度	431,521人 (" 1.04倍)	平成26年度	238,844人 (" 0.59倍)
平成17年度	441,705人 (" 1.02倍)	平成27年度	38,497人 (" 0.16倍)
平成18年度	443,107人 (" 1.01倍)	平成28年度	270,066人 (" 70.15倍)
平成19年度	365,871人 (" 0.83倍)	平成29年度	384,093人 (" 1.42倍)
平成20年度	415,456人 (" 1.14倍)		
平成21年度	428,514人 (" 1.03倍)		
平成22年度	427,223人 (" 0.99倍)		

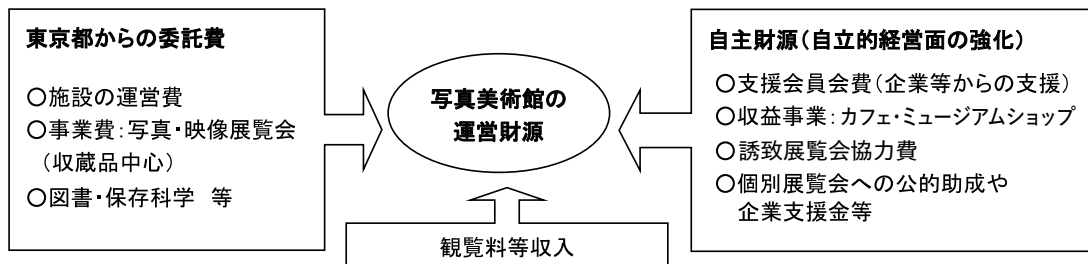
平成30年度 334,799人 (前年度比0.87倍)

※H26.9.24から大規模改修工事のため休館。H28.9.3よりリニューアル・オープン

館運営と事業評価の概念



運営財源



東京都写真美術館の中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成30年度の年度コンセプトを、「たのしむ、まなぶ美術館」と設定した。

たのしむ、まなぶ美術館

写真・映像の魅力を盛り込んだ展覧会や教育普及事業などを実施するとともに、これらの活動を様々な形で広く発信することにより、東京都写真美術館の魅力の向上と浸透を図った。

展覧会

- ・観覧者に感動と高い満足感を与える魅力あふれた20本の展覧会を開催した。
- ・「たのしむ、まなぶ」をテーマに、TOPコレクションを2期にかけて開催した。
- ・展覧会の理解を深めるため、担当学芸員によるギャラリートークやアーティストトークなど、多彩な関連事業を実施し作家、展覧会紹介動画やイヤホンガイドを制作した。

作品収集

- ・平成30年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会を経て、675点の作品を収集した。
- ・収蔵作品合計35,331点（平成31年3月31日時点）
- ・新規資料情報システム導入に向けた準備を行った。

作品管理

- ・既収集作品の著作権処理や作品データを整備した。

教育普及事業

- ・TOPコレクション展関連プログラムを充実させた、暗室など写真美術館ならではの施設を活用したスクールプログラムや次世代の写真映像文化を担う子供たちを育むための教員研修を実施した。
- ・写真、映像について学ぶワークショップを数多く実施した。手話つきギャラリートークはじめ、多様な背景をもつ方々が参加できるプログラムを充実させた。

◆恵比寿映像祭

- ・「トランスポジション 変わる術」を総合テーマに掲げ、展示や上映、ライブ・イヴェント、シンポジウム、ガイドツアーなど、様々な方法により映像表現を紹介した。

◆図書室

- ・写真美術館の刊行物情報を、全国の大学図書館の所蔵図書等を検索できるサイトにリンクさせ、当館刊行物へのアクセス性を向上させた。
- ・展覧会関連図書コーナーを充実させ、お客様へのサービスを向上させた。

◆支援会員向けイベント

- ・支援会員向けにギャラリートークや講演会、交流会を実施した。

◆広報活動

- ・公式ツイッターによる展覧会情報やイベント告知、展覧会特設インスタグラムの活用など、SNSの機能を利用した広報を実施した。作家インタビュー等の映像コンテンツを公開した。
- ・写真美術館へのアクセスが良い商業施設と協力し、展覧会をPRするイベントなどを開催した。

企画諮問会議

座長 山梨 俊夫 国立国際美術館館長
副座長 榎木 野衣 多摩美術大学美術学部教授
福永 治 広島市現代美術館館長
原 久子 大阪電気通信大学総合情報学部教授
高島 直之 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科教授
都筑 正敏 豊田市美術館学芸担当長
植草 学 信濃毎日新聞社編集委員

開催日 平成30年12月20日(木)
議題 平成30年度実績及び平成31(2019)年度計画について(報告事項)
第11回恵比寿映像祭について
審議事項 平成34(2022)年度以降の展覧会の考え方について

外部評価委員会

座長 柏木 博 武蔵野美術大学名誉教授
副座長 小勝 禮子 近現代美術史・美術批評家、
前栃木県立美術館学芸課長
杉田 敦 女子美術大学芸術学部教授
倉石 信乃 明治大学大学院理工学研究科教授
片岡 英子 ニュースウィーク日本版副編集長・フォト・
ディレクター
服部 一人 写真家、映像制作、日本大学芸術学部写真
真学科講師、写真美術館ボランティア

第1回外部評価委員会
開催日 平成30年4月18日(水)
議題 平成29年度事業外部評価項目(事業報告)の聴取について

第2回外部評価委員会
開催日 平成30年5月29日(火)
議題 平成29年度事業評価について

作品資料収蔵委員会

【収集部会】

委員長 高階 秀爾 大原美術館館長
五十嵐 卓 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館
学芸課長
植松 由佳 国立国際美術館主任研究員
岡野 晃子 IZU PHOTO MUSEUM館長
高橋しげみ 青森県立美術館 美術企画課学芸主査
田中 正之 武蔵野美術大学教授

【評価部会】

荒木 夏実 東京藝術大学准教授
飯田志保子 インディペンデント・キュレーター／愛知ト
リエンナーレ2019チーフキュレーター
石田 克哉 MEMディレクター
高橋 朗 PGIディレクター
松永真太郎 横浜美術館主任学芸員
南 雄介 愛知県美術館館長
矢野 進 世田谷美術館学芸部美術担当マネージャー(課長)
和光 清 ワコウ・ワークス・オブ・アート代表取締役

開催日 平成30年11月21日(水)
議題 平成30年度新規収蔵作品の選定
第三期重点作家の策定

恵比寿国際映像祭あり方検討委員会

座長 岩淵 潤子 青山学院大学総合文化政策学部客員教授
／アグロスバシア株式会社取締役・編集長
副座長 拝戸 雅彦 愛知県美術館企画業務課長
塩見 有子 NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ ディレクター
東野 正剛 ショートショートフィルムフェスティバル&
アジア フェスティバルディレクター
松永真太郎 横浜美術館主任学芸員
かえりやま 歸山 健一 日本経済新聞社文化事業局局長兼文化事業部長

開催日 平成30年11月1日(木)、12月6日(木)、平成31年1月10日(木)
議題 恵比寿映像祭の今後のあり方と指針に関すること

記者懇談会

第1回記者懇談会
開催日 平成30年6月13日(水)
出席者数 17媒体、19名
内容
・平成29年度事業実績／平成30年度事業運営方針
・平成30年度東京都写真美術館事業概要
・法人支援会員概況
懇談会

第2回記者懇談会
開催日 平成31年3月14日(木)
出席者数 18媒体、22名
内容
・平成30年度事業実績(2月末現在)等
・平成31(2019)年度東京都写真美術館事業概要
・「第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術」実績等
・法人支援会員概況
・平成30年度新規収蔵品の紹介
懇談会

4月18日	第1回外部評価委員会
5月16日	写真映像文化振興支援協議会 「支援会員企業交流会」 於：花王株式会社 花王すみだ事業場
5月29日	第2回外部評価委員会
6月13日	第1回記者懇談会
7月9日	写真映像文化振興支援協議会 理事会・懇親会
10月1日	都民の日 展覧会無料サービス
10月11日	写真映像文化振興支援協議会 「支援会員企業交流会」 於：株式会社清水建設 技術研究所
11月1日	第1回恵比寿国際映像祭あり方検討委員会
11月21日	作品資料収蔵委員会
12月6日	第2回恵比寿国際映像祭あり方検討委員会
12月20日	企画諮問委員会
1月2日・3日	お正月特別開館 イベント多数実施
1月10日	第3回恵比寿国際映像祭あり方検討委員会
3月14日	第2回記者懇談会